

第14回OCHISセミナー 働き方改革の対応で 運転者の健康管理を

運輸業界の健康起因事故防止活動を推進するNPO法人ヘルスケアネットワーク(理事長・武田裕大阪大学名誉教授、OCHIS)は7日、14回目となる「OCHISセミナー」を大阪市の大阪大学中之島センターで開催。トラック、バス、タクシーのほか医療関係者らが多数出席した。今回のテーマは「安全・



事例報告で
紹介は、堀内運送
(大阪市)の三
浦隆志課長が自
社の取り組みと
して労災二次検
診の準備から事
後措置を説明。
また三和運輸機
工(川崎市)の

健康対策へのアプローチ手法とマネジメント」とし、OCHISが全日本トラック協会と連携して立ち上げた「運輸ヘルスケアナビシステム」から見えてきた運輸業界の全容と事業者の取り組み事例を紹介した。

基調講演では国土交通省の石田勝利安全政策課長と全ト協の大西政弘交通・環境部長が健康起因事故の実態説明やドライバーの健康管理の重要性を説いた。国交省の事業用自動車健康起因事故対

策協議会座長で大原記念労働科学研究所の酒井一博氏も、事故調の分析で明らかになった事故パターンを示して安全・健康対策への3つのアプローチを紹介した。

この中で酒井氏が説明した3つのアプローチは、①働き方改革の展開で労働時間の適正把握、休日・休暇の確保、残業の36協定届出、②健康管理の強化としてポピュレーション・ストラテジー(元気な運転者を増やす)とハイリスク・ストラテジー(有所見者を減らす)、③疲労マネジメントの導入・実践だった。いずれも各ドライバーの健康診断結果を放置せずに健康の維持、改善に向けての事業者の役割が重要で、集団や個人へのアプローチに向けて運輸ヘルスケアナビシステムとの連携が最適との考えを示した。

中山学常務が運輸ヘルスケアナビシステムの活用と社内の意識変化について語り、両社とも診断結果の見える化の効用を説いた。